

Islamic Republic of Pakistan  
South Asia

南アジア  
パキスタン・イスラム共和国

ペシャワール病院支援活動



派遣者 姫路赤十字病院 看護師長  
高原 美貴

派遣期間 平成21年12月16日～平成22年6月18日



国内避難民への救援物資配布の様子



手術後の回復を待ちペシャワール病院に入院していたアッバス君

支援活動の背景

平成21年4月末から、パキスタン政府は、アフガニスタンとの国境付近に軍隊を派遣し、タリバーンの武装勢力の掃討作戦を開始。この作戦に対する報復として、各地でテロ事件が増加し、多くの一般市民が犠牲になっています。そのため、この戦闘から安全な土地へ逃れようとする350万人以上の国内避難民が発生しました。



紛争地の戦傷外科病院を支援

この病院の患者さんたちは武力紛争の被害者です。高原看護師長は、紛争犠牲者を救援するために赤十字国際委員会が開設したペシャワール戦傷外科病院で6ヶ月間に渡り看護師として勤務し、パキスタン人看護師の看護管理・教育等に携わりました。



病院の機能

平成21年2月18日に病床数60床で開設されたペシャワール戦傷外科病院は、高原看護師長の離任時には、必要性に合わせて103床に拡張していました。手術室・材料滅菌室・X線写真室・検査室・リハビリ室も備え、毎日10件前後の手術を世界各国から集まった2～3人の外科医と2人の麻酔科医で行っていました。その他各国の赤十字スタッフは16～20人が勤務していましたが、何よりもメインのマンパワーは183人のパキスタン人スタッフでした。